



城陽市歴史民俗資料館

友の会だより

編集発行：城陽市歴史民俗資料館友の会
〒610-0121 城陽市寺田今堀1番地 城陽市歴史民俗資料館
TEL0774-55-7611 FAX0774-55-7612 www.city.joyo.kyoto.jp/rekishu/
発行日：令和5(2023)年5月21日

No. **51**
2023.5

年年歳歳花相似たり 歳歳年年人同じからず

城陽市歴史民俗資料館友の会会長 泰地 賢治

4月は出会いと別れのときです。

新しい学校に入って新たな友や先生と出会い、卒業して親しかった友や恩師と別れる。職場や様々な団体でも同じことが見受けられることでしょう。

資料館でも異動がありました。館長が佐橋徹さんから大岩洋一さんに代わられました。佐橋さんは2019年4月から今年の3月まで勤められましたが、丁度、新型コロナウイルスの感染が蔓延した時期と重なります。資料館もコロナ禍によって一時期休館を余儀なくされ、ご苦勞も多かったのではないかと拝察しています。

また、資料館の職員であった田中香織さんが今年3月に退職され、4月から京都府立京都学・歴史彩館に勤務されています。田中さんには、2012年から2022年の長きに亘って「古文書講座」の講師をお願いしてきました。軽妙な語り口と豊富な知識に裏付けされた楽しい連続講座で、毎年、多くの方がその開催を楽しみにしていました。

戸花亜利州さん(帝塚山大学考古学研究所)が4月17日にご病気で急逝されました。戸花さんには2016年から昨年まで5回に亘って「仏像講座」を担当して頂きました。

この講座は、当時、資料館の職員であった戸花さんに「何か新しい企画を」と相談した結果、新たな連続講座として発足したもので、これまで仏

像に関する基礎や見所、奈良、平安、鎌倉の各時代の仏像の特徴などについて講義と臨地見学をして頂きました。今年度は、鑑真和上と唐招提寺にまつわるお話を伺えると期待しておりましたが、それも叶いません。優しいお人柄で、学生にも人気が高かったと伺っています。戸花さんのご冥福をお祈りします。(合掌)

さて、工藤顧問も触れられている(次頁参照)「年年歳歳花相似 歳歳年年人不同」(劉廷芝)の詩。「花は毎年同じように咲くが、人は年ごとに変わっていく。人の世の移り変わってはかないさまを不変の自然に対比させてもの」とされています(日本語大辞典、講談社)。しかしながら、「歳歳年年人不同」は、世の無常を嘆くのではなく、「人は幾つになっても成長し、毎年新しい出会いがある」とも解されるのではないのでしょうか。

友の会の会員数は昨年度末で79名です。友の会が、会員の皆様それぞれにとって、新しい人との出会い、新しい物との出会いを提供する場となることを願っています。

歴史民俗資料館 常設展示室
古文書の展示は年数回
展示替えをおこなっています。

歴史民俗資料館新館長就任のごあいさつ

城陽市歴史民俗資料館館長 大岩 洋一

本年4月1日付けで着任いたしました大岩と申します。友の会会員の皆様には、日頃から資料館の運営に格別の御協力と御支援を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、私はこれまで城陽市内の小学校で勤務していたこともあり、度々この資料館には児童の引率で来ておりました。また、私自身城陽市民でもあり、我が子が小学生の頃に一緒に来館したことを懐かしく思い出します。私にとっては大変馴染み深い場所であり、今回このような御縁をいただいたことを心から有難く感じております。

城陽市には、古墳をはじめ多くの遺跡が存在し、まさに歴史が息づくまちです。そして、新名神高速道路の全線開通を控え、未来に向かって伸び行くまちでもあります。城陽市が有する歴史・自然・産業などの豊かな地域資源を活かし、魅力的なまちづくりへとつなげていく「JOYO エコミュージアム」構想の推進に向け、当資料館が果たさな

ければならない役割は誠に大きく、資料館の職員一同力を合わせて努めてまいり所存です。

先日、着任して早々、「プラ板で古墳のキーホルダーをつくろう！」という体験教室が開催されました。そのときに強く印象に残ったのが、作り上げたときの子どもの嬉しそうな表情や親子の微笑ましい会話であり、そして何より参加者と資料館職員の温かなやり取りこそが、市民に愛され親しまれるための資料館運営の礎であることを改めて感じました。私にとって資料館勤務は初めての経験であり、学ばなければならないことはたくさんありますが、子どもから高齢者まであらゆる世代の方が気軽に訪れ、また来たいと思っていただける資料館を目指して取り組んでまいります。

結びにあたり、友の会の創立20周年をお祝い申し上げますとともに、会員の皆様方の今後ますますの御健康と御活躍をお祈りいたします。

歴史民俗資料館《友の会創立20周年!》

城陽市歴史民俗資料館友の会初代会長 工藤 香代子

令和5年3月・桜蕾固し。城陽市歴史民俗資料館友の会第3代会長泰地氏から、お電話があった。「友の会も20周年を迎えました。5月号の友の会便りに寄稿文をー」ということで、発足当時の20年前に翻り、時代の流れを否応なしに感じています。

唐詩選「年年歳歳花相似 歳歳年年人不同」
「資料館を市民側から応援してゆく」を目的に「友の会」が創立。試行錯誤しながら会員各位と積極的に土台造りに精を出した。10年前には友の会設立10周年記念誌発行。内容は主に友の会便りに記載の会員諸氏からの感想文。会員の思いが込められた記念誌となった。創立11年目からは新友の会

に移り活発に活動を開始。しかしここ3年間は想像だにできなかった新型コロナウイルスの影響で計画中の事業の中止。活動にも大きな痛手があった。

今回迎えた20周年記念もコロナのため計画通りに進まず役員諸氏の無念さをお察しする。その中ではあるが迎えた20周年記念品として資料館事業の図録が配布されるという。大事な心のこもった資料館と友の会の絆の記念品として誠にありがたく思います。

さてご承知の通り国の文化庁が東京から京都に移りました。長官は有形無形の文化を維持、継承し、未来へ伝え、日本の新たな文化芸術を世界中に発

信することが役目です。」と強調。他に「日本は様々な価値観を認めながら共生する文化である。盆踊りや祭り、運動会などの住民の催しから、一期一会のお茶会も。文化とは日本人の心根のようなものだから国民が協調し自助、共助の日本を目指すべき。移転は京都のためだけではなく各自治体を含める日本のためです。」とも。

かえりみて今、私達の街、城陽は新名神高速道路の開通を契機として大きく変わろうとしています。市長は「この歩みを止めることなく先人が築かれた今日までの歴史と伝統を礎に未来へ繋げて行く。」と宣言。

とすると今世代の歴民のこれからの目標もおのずと「歴史と未来を繋ぎ、人を育む緑の街城陽」であり、友の会もそれを応援して行く事にある。丁度、教育行政の事業として「まちをひとつのミュージアム」と

考える「JOYO エコミュージアム」が資料館を拠点として活動されています。「まちの魅力再発見ツアー」や「魅力現場のカード絵」（地域資源キャラクターカード）等で紹介されるわけですが、友の会の担当役のご努力には頭が下がります。そこで市民への浸透を更に深め広げるためにも、当事業を会全体での取り組みとして捉え会員全体の勉強会を提案します。「カード絵」を教材に街の魅力現場の知識を広め、市民にも広げることです。新時代へと変化して行く街に、残しておきたいものを発見して後世に渡すこと、これは資料館の役目であり友の会の活動でもあると考えます。資料館は街の知の殿堂であるべきです。そして「知」は「愛」の行動に守られたものであって欲しいものです。

原稿を書き終えたら桜も終わり、新たな出発の4月に入っていました。(令和5年4月6日、記)

事業報告 2022(令和4)年度 (2022/1/1~2022/12/31)

事業名		内容
研修見学会	第54回	実施日＝11月5日 内容＝橿原市（歴史に憩う橿原市博物館、新沢千塚古墳群公園）・明日香村（牽牛子塚公園。越塚御門古墳） 参加者＝34名（会員25名、一般7名、小泉講師、資料館1名）
	記念講演会	日時＝7月10日 13:00－15:00 演題：共存する二つの勢力ー長池古墳・芝山古墳群と久津川古墳群ー 講師＝公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査課長 小池 寛氏 場所＝文化パルク城陽会議室 参加者＝32名
講座	文化財講座	実施日＝6月5日 14:00－15:30 演題＝城陽市の最新文化財情報 講師＝公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 小泉 裕司氏 場所＝文化パルク城陽会議室 参加者＝34名
	古文書講座	日時＝10月19日、11月2日、11月18日、11月30日 10:00－11:30 テーマ＝「土佐日記」を読む 講師＝城陽市歴史民俗資料館 古文書・民俗文化財調査員 田中香織氏 場所＝文化パルク城陽会議室 受講者＝全講座延べ92名 合計28名（会員22名、一般6名） ★アンケート実施
	仏像講座	テーマ＝天平彫刻の至宝ー東大寺法華堂諸尊の魅力に迫るー 内容（場所・参加者）＝座学：12月9日（文化パルク会議室 23名） 臨地見学：12月16日（法華堂・俊乗堂 16名） 講師＝帝塚山大学考古学研究所特別研究員 戸花 亜利州氏
ボランティア活動	資料館事業	【勾玉つくり】 7回開催 3月28日、5月8日、6月19日、7月31日、9月18日、10月16日、11月20日" 【古文書整理】 5回開催 6月3日、7月22日、8月26日、9月23日、11月25日
	エコミュージアム事業	11月12日 令和4年度第1回エコツアー
広報活動	会誌 「友の会だより」	4月30日 第49号発行 12月24日 第50号発行
	友の会HP	随時更新
	加盟団体	城陽市市民活動支援センター登録団体（更新） 城陽市社会教育関係団体（更新せず）

令和4年度（2022年）城陽市歴史民俗資料館友の会 決算報告

【収入の部】

(単位：円)

科目	予算	決算	内 訳	
会費	99,500	107,500	継続会員 55名×1,500円 継続家族会員 20名×1,000円 新規会員 2名×1,500円 新規家族会員 2名×1,000円	82,500 20,000 3,000 2,000
その他	0	2,000	教育委員会よりエコミュージアム弁当代	2,000
繰越金	103,896	103,896	令和3年度より	103,896
合計	203,396	213,396		213,396

【支出の部】

科目	予算	決算	内 訳	
事業費	38,000	27,924	第54回研修見学会補助金 仏像講座補助金 古文書講座補助金 文化財講座補助金	10,894 14,000 1,040 1,990
郵送費	50,000	25,350	総会資料関係、年会費納入依頼、友の会だより No49・50、会員証郵送、総会中止連絡、研修見学会案内、仏像・古文書講座案内等	25,350
総会費	14,000	13,840	第9回友の会総会記念講演会 会場費・コピー代等 講師手土産代	11,830 2,010
事務費	3,000	3,093	ハガキ用紙、振込み用紙印字代、帳簿代 他	3,093
負担金	3,000	480	会員入館補助金 160円×3名	480
予備・雑費	5,000	2,000	エコミュージアム協力金（弁当代）	2,000
その他	90,396	140,709	次年度への繰越金	140,709
合計	203,396	213,396		213,396

収入合計 213,396 - 支出合計 72,687 = 残金 140,709

※差引き残高は翌年度に繰越し

会計担当 吉田 好男

令和5年1月10日

会計帳簿、収入・支出伝票、預金通帳など監査の結果、適当と認めます

会計監査 島本 憲司 ㊟

会計監査 加藤 明美 ㊟

令和5年度（2023年）城陽市歴史民俗資料館友の会 事業計画（案）

事業名		内容	
研修見学会	第55回	5月19日	奈良県歴史芸術文化村、天理参考館
	第56回	9月頃	未定
	第57回	秋以降	未定
講座	文化財講座	6月11日	城陽市の文化財最新情報
	古文書講座		中止（下記【経緯】参照）
	仏像講座		
特別講演会		8月・9月 2回	村本幹夫氏（城陽高校教員業務支援員）
ボランティア活動	城陽市歴史民俗資料館事業		適宜
	エコミュージアム事業		適宜
広報活動	会誌「友の会だより」		適宜
	友の会HP		適宜
加盟団体	城陽市市民活動支援センター登録団体		継続
	城陽市社会教育関係団体		申請
友の会創立20周年記念事業			会員希望の「図録」進呈と「友の会の活動のまとめ」報告

【経緯】

2023年度の友の会の事業計画案は、既に1月度役員会（1/22）で提案され、以下の通り決定されていました。

- ①研修見学会（第55回：5月頃、第56回：未定）
- ②文化財講座（6月頃）
- ③第6回仏像講座（秋以降、講師都合による）
- ④第11回古文書講座（講師都合による）

しかしながら、古文書講座の講師であった田中香織氏が3月31日付で退職され、仏像講座の講師であった戸花亜利州氏が4月17日に急逝されたため、これまで名物講座として親しまれてきた講座が二つとも今年度は開催することができなくなりました。

そこで、急遽、臨時役員会（4月21日）を開催して今年度の事業計画案の見直しを行いました。

その結果は、以下の通りです。

- ①特別講演会を開催する。
- ②研修見学会を1回増やす（第57回の開催）。

令和5年度（2023年）城陽市歴史民俗資料館友の会 予算

【収入の部】

(単位：円)

科目	金額	内 訳	金額
会費	13,500	継続会員 50名 × 1,500円	75,000
		継続家族会員 22名 × 1,000円	22,000
		新規加入会員 3名 × 1,500円 家族会員 2名 × 1,000円	6,500
繰越金	140,709		140,709
合計	244,209		244,209

【支出の部】

科目	予算	内 訳	金額
事業費	50,000	第55回研修見学会補助金	8,000
		第56回研修見学会補助金	8,000
		第57回研修見学会補助金	8,000
		特別講演会補助金	20,000
		文化財講演会補助金（会場費）	6,000
20周年記念事業補助費	50,000		50,000
通信費	40,000	会費納入依頼・会員証・友の会だより（3回） 研修会・各種案内（5回）など	40,000
事務費	3,000	ハガキ用紙代・事務用品代 他	3,000
負担金	3,000	入館補助金	3,000
予備費	5,000		5,000
その他	93,209	次年度への繰越金	93,209
合計	244,209		244,209

実際の予算支出金額は 151,000円

令和5年度（2023年）城陽市歴史民俗資料館友の会 役員一覧

役員名	氏 名	担 当
会 長	泰地 賢治	友の会HP
副 会 長	吉田 好男	
副 会 長	小林 心一	文化財講座・特別講演会・ボランティア窓口
会 計	吉田 好男	
理 事	村上 直美	
理 事	佐藤 公美	
理 事	高橋 正典	友の会HP
理 事	稲岡 計子	文化財講座
理 事	名子 昇	友の会だより編集
理 事	村上 弘芳	
理 事	中村 康信	
会計監査	島本 憲司	
会計監査	加藤 明美	
顧 問	工藤 香代子	

会則の訂正とお詫びについて

2023年4月8日付でお送りした会則の第15条「本会の会計報告は迷年度、会員に報告する。」は「本会の会計報告は毎年度、会員に報告する。」の誤りです。お詫びして訂正します。

「仏像講座」研修見学会報告

「天平彫刻の至宝」見学会に参加して

城陽市歴史民俗資料館友の会会員 山岸 秀夫

昨年師走、城陽市歴史民俗資料館友の会の仏像講座「天平彫刻の至宝」の一環として、12月9日(金)に帝塚山大学考古学研究所の戸花亜利州先生の座学が城陽市文化パークであり、16日(金)が臨地見学会でした。見学先は、東大寺法華堂(三月堂)と俊乗堂でした。特に東大寺法華堂の執金剛神像は1年365日に1日だけの秘仏開扉とあって、見学者が列をなしていました。

法華堂のご本尊は不空羂索観音菩薩で、俊乗堂のご本尊は重源上人像です。私が特に魅了されたのは、俊乗房重源上人(1121～1206)が快慶に造らせた阿弥陀如来立像でした。ガンダーラ風の引き締まった、優しい顔立ちとふくよかな胸に、密教的雰囲気も漂っていました。特に横顔の端正な

「東大寺 法華堂・俊乗堂」見学会に参加して

城陽市歴史民俗資料館学芸員 池縁いづみ

令和4年度の仏像講座の一環として、東大寺の法華堂と俊乗堂に行きました。今回は秘仏公開に合わせた見学会となっており、この日を楽しみにしておられた方も多かったと思います。

法華堂に到着すると、すでに多くの方が並んでおり、30分から1時間ほど並びお堂に入ることができました。堂内には本尊である「不空羂索観音像」を中心に合計10体の仏像が並んでおり、すべてが奈良時代に造られたもので国宝に指定されています。

縄を投げてすべての人をもれなく救ってくれる不空羂索観音像は像高約3.6mある脱活乾漆造です。整った顔つきにがっしりと引き締まったお体で、光背も非常に美しく、多くの方が見入っておられました。背面にまわると、毎年12月16日のみに厨子が開けられ公開される秘仏「執金剛神

像」を見ることができました。塑像で制作され、鮮やかな彩色が腕や足の部分に残っていました。怒号の表情で、左手には血管の浮き出る表現があり、金剛杵を振り上げて仏敵から人々を守ろうとする気迫に満ち溢れたお像でした。皆さん座学で得た知識とともにじっくりと拝観することができました。

次に、俊乗堂の方へ移動しました。こちらでも7月5日と12月16日のみの公開の、秘仏である肖像彫刻「俊乗房重源上人坐像」や快慶作の「阿弥陀如来立像」、平安末期の「愛染明王坐像」を見ることができました。

今回、見学に同行してくださった戸花先生が令和5年4月17日に急逝されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(本稿は、「山岸秀夫：老いてなお生きる、百万遍通信 2023年新春号 No.187(2023年1月31日)、(公財)体質研究会・イメリタスクラブ」より抜粋し転載しました。)



像」を見ることができました。塑像で制作され、鮮やかな彩色が腕や足の部分に残っていました。怒号の表情で、左手には血管の浮き出る表現があり、金剛杵を振り上げて仏敵から人々を守ろうとする気迫に満ち溢れたお像でした。皆さん座学で得た知識とともにじっくりと拝観することができました。

次に、俊乗堂の方へ移動しました。こちらでも7月5日と12月16日のみの公開の、秘仏である肖像彫刻「俊乗房重源上人坐像」や快慶作の「阿弥陀如来立像」、平安末期の「愛染明王坐像」を見ることができました。

今回、見学に同行してくださった戸花先生が令和5年4月17日に急逝されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

城陽市歴史民俗資料館 学芸員から友の会会員の皆さんへ

会員の皆様に資料館の学芸員・調査員の方々の活動をより詳しく知って頂くために、

今号から「友の会だより」への寄稿をお願いしています。

今回は、トップを切ってユニークな企画展示を考えておられる薄井主任学芸員の登場です。

思い出の展示会 印象にのこる企画展示を くりひろげます。

平成30年に開催
秋期特別展「奥田高麗蔵と
メイゾン鴻乃巢」会場での一コマ



城陽市歴史民俗資料館主任学芸員 **薄井 ゆみこ**

主任学芸員の薄井ゆみこです。みなさん城陽市歴史民俗資料館の展示会を楽しんでいただいていますか。

これまで担当した展示会は「模型の世界」「オバケモノノケ」「昭和のおもちゃとこどもの遊び」「川

と人々のくらし

「城陽を走った電車の話」等、これまで主担当として携わった展示は特別展が13回、企画展・資料紹介が7回になります。

特に思い出深い展示は、平成30年度に開催した秋季特別展「奥田駒蔵とメイゾン鴻乃巢」です。

静岡にお住まいの作家奥田万里さんのご協力のもと、寺田村の出身で東京銀座で洋食店を開き、

北原白秋、志賀直哉、与謝野晶子等の文学者や芸術家が集まるサロンを作った奥田駒蔵という人物について紹介しました。友の会会員の皆さんが、奥田万里さんの著作『大正文士のサロンを作った男—奥田駒蔵とメイゾン鴻乃巢』について、いろいろとご教示・ご協力下さったおかげで実現した展示です。

現在資料館では春の資料紹介「古墳へ行こう! 2023 + 発掘調査速報展」を開催しています。次に夏季特別展では、今年で60年を迎える近鉄京

都線の車両などを紹介し、その後も秋季特別展と冬季企画展を予定しています。

また、常設展示室では現在近世コーナーで江戸時代の旅に関する資料を、民俗コーナーでは昭和30年代の駄菓子屋で販売されていたおもちゃやこどもの遊びについても展示しています。

今後も友の会の皆様のご支援をいただき、資料館の活動を充実させていきたいと考えていますので注目よろしくお願いたします。



平成30年に開催した秋期特別展「奥田高麗蔵とメイゾン鴻乃巢」は城陽ならではのユニークな企画でした。



会員募集中!

城陽市歴史民俗資料館友の会では、研修見学会、文化財講座、古文書講座、仏像講座等いろんな企画を計画しています。ぜひお友達、お知り合いの方にご紹介ください。

歴史民俗資料館年間事業
友の会ボランティアについてのお問い合わせ
城陽市歴史民俗資料館
電話 0774-55-7611 FAX0774-55-7612



城陽市歴史民俗資料館友の会だより 第51号

発行日 令和5(2023)年5月21日
編集 城陽市歴史民俗資料館友の会広報
連絡先 城陽市寺田今堀1番地
城陽市歴史民俗資料館
電話 0774-55-7611 FAX0774-55-7612
www.city.joyo.kyoto.jp/rekishi/